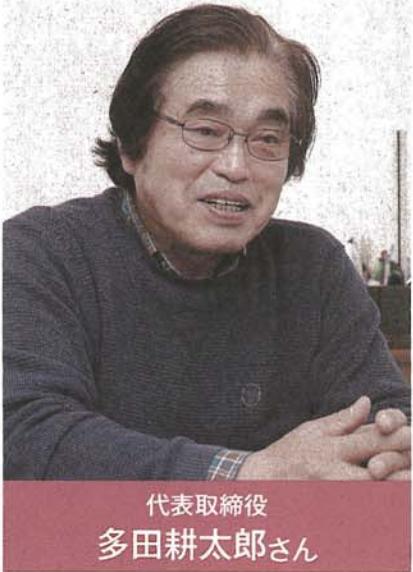


株多田農園

代表取締役
多田耕太郎さん

全国、世界に広げたい サクランボの高い潜在力

高品質のサクランボを
生産するとともに、特殊な
方法で8月まで品質を保
つ「紅姫」など積極的な商
品展開を進めているのが、

山辺町の「多田農園」です。
この春、サクランボ園を拡
大するとともに、事務所や
作業スペースを増築。その
際の資金として、JAバン
クの「アグリシードファン

業容拡大に 頼れる存在

「資金調達など、農業経
営には一般企業と異なる
“特殊性”があります。JA
はその特殊性をきちん
と理解し、いろいろなこと
と一緒に考えてください。

J A バンクは経営上、とて
も頼りになる存在です」。
代表取締役の多田耕太郎
さんが力説します。

1996年にサクラン



良質のサクランボを作るために欠かせない摘果作業

複数品種導入 独自の冷藏法も

おける資金調達や、有利な
助成制度の活用でも、JA
が大きな役割を果たしま
した。「情報の早さ、手続き
のスムーズさはJAなら
では。専門性の高い担当者
と、農業の将来性を語り
合つたりしたものですね」と
振り返ります。

サクランボは一般的に、
収穫・出荷の時期が1カ月
程度の短期間に集中しま
す。多田農園では複数の品
種を導入しているほか、特
殊な方法で冷蔵した物は
8月まで出荷が可能。さら
に温室栽培も取り入れ、販

売可能な期間を3
カ月程度まで延ば
していく」と考
えています。

さらに期待を寄
せているのが、山
形県が開発中の新
品種「山形C-12
号」。大玉で糖度が
高く、日持ちがす
る特性に着目し、
今後導入する計画
です。加えて、独自
の冷蔵保存技術を
生かし「将来は輸
出も視野に入れたい。10年
程度で結果を出せるよう
にしたい」と意欲を見せま
す。

「食」は人々の「いのち」を支える命であり、食料を生産する農業
は「いのち」を守る大切な産業です。人口減、後継者不足といった時
代背景の中、日本の農業の中心だった家族経営型から、新たな経営
形態を取り入れ、仕事の進め方や販売戦略を一新して「地域農業の

持続的発展」を目指している人々・団体が活躍しています。JAバン
クをはじめとするJAグループは、農業の新たな展開を志す人や団
体に対し、さまざまな形で支援を行っています。JAグループと手
を携え、山形県の農業に新風を吹き込んでいる法人を紹介します。